

エコ社会を加速して
より良い未来を造るため

じ れ い ズ
事例 S

[JiLAYs Concept]

Ver.1.0

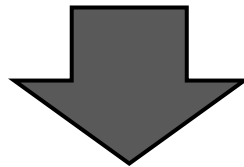
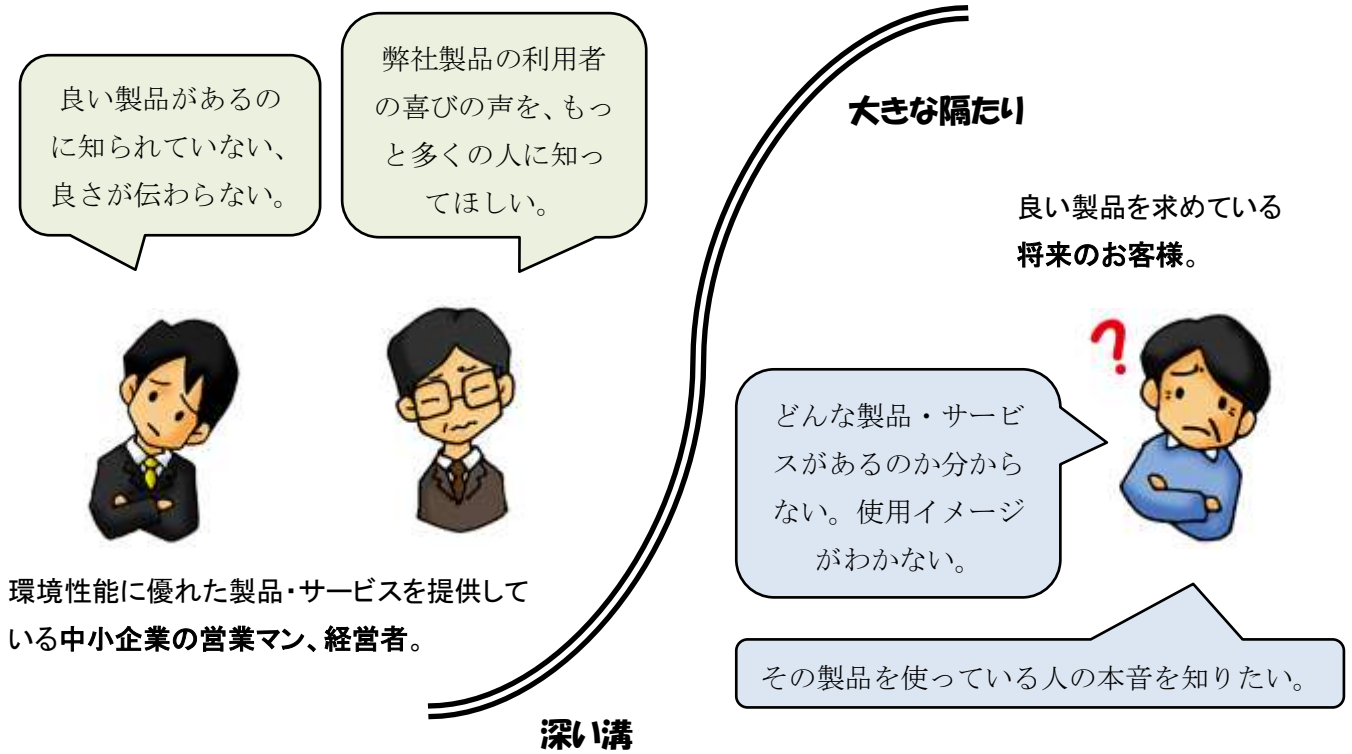
2016年2月

株式会社エンタータ

産業ジャーナリスト 下島 朗

1.『事例 s』サイト企画の背景と趣旨

現状は、



自社サイトに

事例紹介の記事やコンテンツがあれば！

しかし、



結果、

中小企業のホームページでは、

簡単な写真と、簡単な説明だけの事例紹介。細かな内容やお客様の声は伝わらない。しかも、あまり更新されていない…。

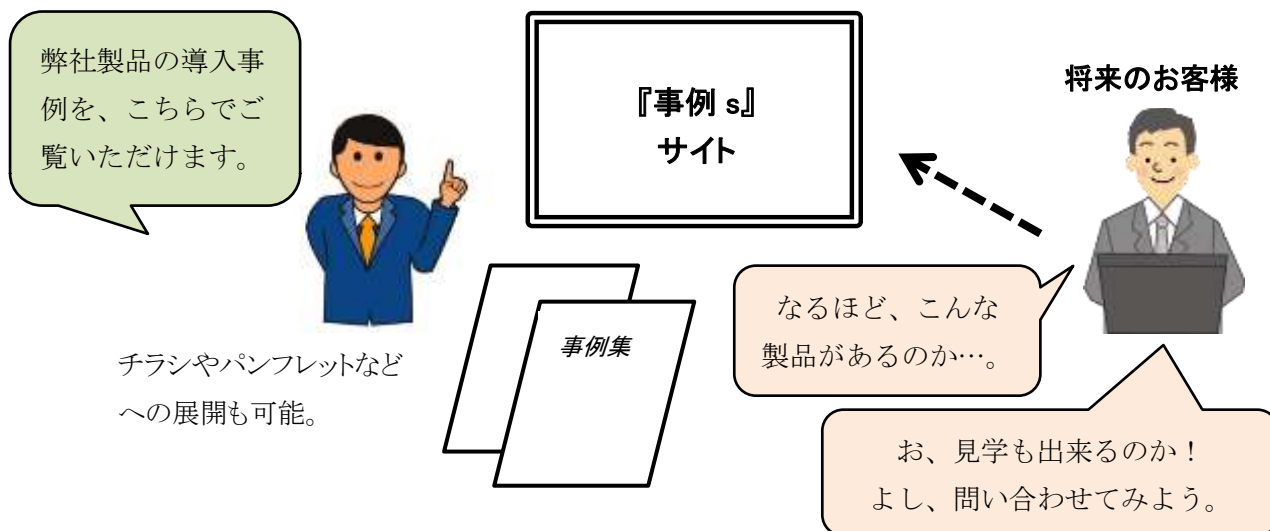
というケースが少なくありません。残念です、もったいない。

そこで、ライター歴 20 年超の産業ジャーナリスト・下島 朗が、御社の優れた製品・サービスの導入事例・施工事例を取材して、リーズナブルな価格で事例記事や事例動画にします。

対象分野は、①IT/OA、②エコ製品、③建築、④設備、⑤ロボット。

事例記事は、専門サイト『事例 s』に掲載するほか
貴社サイトへの掲載や紙資料での利用、動画サイトへの投稿も可能。

こうした活動を続けることで、



といったことが、たくさん起きるようになって…

その結果、もしかしたら『事例 s』が自然エネルギー(再生可能エネルギー)普及拡大の一助となって、

20XX 年



日本の電力需要に対する自然エネルギーの比率が年々高まり、今年度は 20%を超える見込みです。これを受けて政府は、自然エネルギーや省エネルギーの技術を 21 世紀日本の基幹産業に位置づけ、海外への技術供与を進める方針です。

なんてことに、なるかも知れません。一方、今のままで行くと、

日本の電力需要に対する自然エネルギーの比率は、依然 5%を下回り、他の先進国に大きく後れを取っています。また、政府は、火力発電所の燃料コストを抑えるため、新たな原子力発電所の建設計画を発表しました。



といった状況が続くかも知れません。

あるいは、消費電力の少ない製品・設備の普及が進み、



国内の電力需要は、省エネルギー型の機械・設備の普及によって、東日本大震災の前に比べて約 20%減少しました。これを受けて政府は、さらに原発の廃炉を進めて行く考えです。

なんてことに、なるかも知れません。一方、

日本の電力需要は今も年々増加し、さらなる発電設備の整備が急務となっています。これを受けて政府は、新たな原子力発電所の建設計画を発表しました。



なんてことになる可能性もあります。

大袈裟でしょうか？

2011年3月の福島原発事故のあと、原発反対運動が盛り上がりました。私の友人も参加していました。このような活動が許される日本は、いい国だと思います。

私も、長期的には現行方式の原発への依存は減らして行く方がいいと思います。やはり、リスクが大きい技術なので。とはいえ、すぐに全廃は難しいだろうとも思います。産業や経済への影響が大きいので。

さらに、海外には今後も原発を増やそうとしている国がたくさんあります。そういった意味でも、世界的に見て福島の事故を経験した日本の原発技術は貴重だと思います。

一方、**緩やかな原発削減のために、こんな方法もあり**かと思います。

①『事例 s』で、環境性能に優れた製品・技術をどんどん紹介する。



②省エネ製品や、再生可能エネルギーの普及が加速する。



③消費電力が減り、再生可能エネルギーの比率が上がる。



④無理のないカタチで、原発の必要性が下がっていく。



**エコ社会を加速して
より良い未来を造るため
『事例 s』**

私は、基本的に「人間は後戻りできない」と思っています。

「昔はエアコンなんてなかった。エアコンを止めれば電力消費を減らせる」

「昔はクルマなんてなかった。クルマの利用を控えれば大気汚染を解決できる」

どうでしょう？ 実際には、消費電力の少ないエアコンを開発して置き換えて行くのが現実的な解決方法ではないでしょうか。クルマの排気ガス問題も、厳しい排ガス規制を設定し、クリアすることで解決してきました。つまり、「人間(社会)は過去に戻らない。今の技術に課題があるなら、より優れた技術を開発して普及させることで解決していく」のが王道だと思うのですが、あなたはどう思われますか？

もちろん、無名のライター、小さな Web サイトにできることには限りがあります。しかし、やればやった分だけ何らかの成果は期待できる。ほんの少しでも、エコ社会を推進めることができる。のではないかとこの思いがあります。



本当に微力ではありますが、少しでも「**エコ社会を加速させたい**」、そして「**より良い未来づくりに貢献したい**」、これが『事例 s』サイト企画の趣旨です。

2.『事例 s』の取材対象

『事例 s』の取材対象は、次の 5 分野です。①省エネ性能または環境性能の高いエコな製品・サービス、あるいは②生活環境または労働環境をより良くする製品・サービスであることを要件とします。

1. IT/OA

●サーバー、情報システム、通信回線、モバイル、OA 機器、など。

2. エコ製品

●LED 照明、太陽光発電、風力発電、小水力発電、波力・潮力発電、地熱発電、バイオマス発電、省エネルギーを実現する各種機器や設備、など。燃料電池やエコカーなどもここで扱う予定です。

3. 建築

●戸建住宅、集合住宅、環境配慮型のオフィスビル等、公共建築、大規模リフォーム、小規模リフォーム、リノベーション、など。

4. 設備

●工場などの生産設備、店舗やオフィスビル等の産業用設備、建築付帯設備、など。

5. ロボット

●産業用ロボット、家庭向けロボット、災害対策ロボット、装着型ロボット、など。

費用は、0円から。
詳しくは、事例 s サイト
<http://jilays.com>
で、ご確認ください。